

漆芸美術館だより



水谷内 修《沈金箱「開闢」》第40回日本伝統漆芸展 文部科学大臣賞

97

第40回 日本伝統漆芸展
第28回 飛翔する輪島の漆芸作家たち—全国展入選作品—
美術館のひそかなリニューアル
石川県輪島漆芸美術館友の会 秋季研修旅行実施報告
ミュージアムショップからのお知らせ
イベント情報

2023年2月8日発行

第40回 日本伝統漆芸展

日本を代表する工芸として、永い歴史をもつ漆芸。日本伝統漆芸展は伝統の継承とその練磨、現代への応用を目指して毎年開かれています。今年度は記念すべき第40回展を迎え、文部科学大臣賞や各奨励賞、新人賞、第40回記念賞等計9点の受賞を含めた作品全94点を展示いたします。

文部科学大臣賞を受賞した水谷内修氏の《沈金箱「開闢」》(表紙)は、日本屈指の豪雪地帯である立山の春を告げる風景を、沈金の技法によって胴張型の箱に描いた作品です。そそり立つ雪の壁を精緻な点彫によって表し、白金で色調を整えています。側面の白漆と黒の対比も美しく、沈黒技法で彫られたハイマツがアクセントとなっています。目にも鮮やかな青の色漆がどこまでも高い空を想起させ、作者の思いが込められた「開闢」の題名が見る者に共感を与える優品です。

朝日新聞社賞を受賞した田中義光氏の《蒔絵箱「優しい風」》(図1)は、夏の暑さが和らぐ夕暮れ時、可憐な夏水仙の周りを舞うカラスアゲハを描いた作品です。淡い桃色の花弁は粉を蒔いた後に色漆で暈し塗り、朱で裏彩色を施した白蝶貝で表現しています。白漆で描かれた花のシルエットに黒いチョウの姿が浮かび上がり、ひらひらと舞うその姿から作者が感じた爽やかな風を感じ取る



図1 田中義光《蒔絵箱「優しい風」》朝日新聞社賞



図2 清水康志《乾漆合子「花ひらく」》日本伝統漆芸展第40回記念賞



図3 塚田美里《沈金箱「冬萌」》奨励賞 会津若松市長賞

ことができます。

日本伝統漆芸展第40回記念賞を受賞した清水康志氏の《乾漆合子「花ひらく」》(図2)は、夜明け前のほの暗い光の中に花が蕾を膨らませる姿を乾漆によって表現した作品です。中途りの段階で花びらの先端を朱漆で暈し塗り、その後全体に透漆で上塗りを施し艶を上げること、花弁の先端部分が光を透かしたような柔らかな色調となっています。蕾がほころぶ刹那の姿を繊細に表現した作品です。

《沈金箱「冬萌」》(図3)で奨励賞 会津若松市長賞を受賞した塚田美里氏を含め、9名の受賞者のうち4名を輪島にゆかりのある作家が占め、昨年に続き素晴らしい結果となりました。この結

2023年2月4日(土)〜2月26日(日) *会期中無休

果は漆の里・輪島の高い技術力が次代に確かに受け継がれている表れではないでしょうか。当地での開催を通して、連綿と育まれてきた技術や芸術性をご覧いただけますと幸いです。(福江里美)

【列品解説のご案内】

会期中出品者による展示作品の解説を行います。
2月5日(日) 山岸一男氏

(重要無形文化財保持者、審査・鑑査委員)
2月12日(日) 寺西松太氏(審査委員資格者)

2月19日(日) 荒川文彦氏(鑑査委員)

2月26日(日) 大角裕二氏(日本工芸会正会員)
いずれも13時30分開始 *入館券が必要です

第28回 飛翔する輪島の漆芸作家たち―全国展入選作品―

2023年3月4日(土)～5月7日(日) *会期中無休

漆の里・輪島では、漆芸美術の一大拠点として伝統と技術が継承されています。全国公募の展覧会における先人たちの功績の数々は、その基盤を築き上げました。日展や日本伝統工芸展をはじめとする公募展にはなお多くの作家が挑み、自らの創造の理念を世に問い続けています。本展覧会では、こうした舞台で活躍する輪島の漆芸作家たちに取材し、令和3年度に入選を果たした作品を一堂に展示します。

文部省が主催した帝国美術院展覧会に輪島の前大峰、竹園自耕が初めて入選を果たしたのは1929年、工芸の美術界進出の機運が高まり、第四部美術工芸が開設された2年後のことです。この展覧会に連なるのが現在の日展です。以来工芸の世界を押し広げる取り組みが続けられ、作品の形態も飾箱や家具など時代とともに多様に展開し、現在の漆芸分野では平面作品が主に発表されています。角康二氏の《蝶・水・幻想》(図1)は鑿のみので文様を彫り、彫り溝に金粉や金箔を漆で定着させる沈金技法によって制作されました。点彫の粗密で陰影を作り、さらに沈金に重ねた金箔を削り階調を与えています。角氏は幻想的なモチーフを端正に描き切ることにより、縦長の構図で漆黒を最大限に生かし、果てしない広がりを持つ空間を感じさせています。舞い昇る蝶をすり抜けて落ち

る球体の、泉に沈む音が響き渡るようです。

1955年に文化財保護法が改正されると、高度に体得された「技」を保存する取り組みとして重要無形文化財制度が始まりました。作者独自の芸術的表現を重視しつつ今日の生活に即した新しい伝統を創造する考えに基づき、公募制の日本伝統工芸展が開催されています。同展に出品された鬼平慶司氏の《高時絵箱「月影冴ゆる」》(図2)は乾漆によって造形された、「箱」の創作に無限の可能性を感じさせるものです。側面の遠景に積雪の樹林を、近景に高時絵の技法によって盛り上げられた木立に金平文の冴えわたった月の光を垣間見せ、静寂の風景が間近に広がるような演出をしています。甲面には闇に浮かぶ星空を螺鈿による抑制の効いた表現とし、側面と甲面で手法やモチーフを描き分け、場面や視点を切り替えるかの

ごとく操っています。

関連事業として、日展や日工会等で活躍した市中佑佳氏に取材した特別映像「レジエント・ファイル」をウェブ上で公開いたします。また、会期中同氏の作品を特別展示いたします。市中氏は立体の漆芸作品を数多く発表しました。透明なアクリルなど無機質な異素材をあえて組み合わせ、漆による有機的な造形を一層魅力的なものとし、制作に対する姿勢や次世代の作家に伝えたい思いなど、市中氏が熱く語る様子を収録しています。ぜひご覧ください。(寺尾藍子)



図1 角康二《蝶・水・幻想》
2021年 第8回日展



図2 鬼平慶司《高時絵箱「月影冴ゆる」》
2021年 第68回日本伝統工芸展

美術館のひそかな

リニューアル

2021年4月、当館の第2収蔵庫棟が竣工したことは、漆芸美術館日より92号で既にお知らせしたとおりです。しかし、新築建物は建材から発生する化学物質が、美術品に悪影響を及ぼす恐れがあり、完成したからといって直ちに作品を収蔵できるわけではありません。化学物質の濃度が十分低下し、庫内が良好な状態に落ち着くまでの期間を「枯らし」と呼びますが、これには2度の夏を経ることが望ましいとされています。この間は、収蔵庫内やその周辺空間のpHや温湿度を注視してきました。収蔵庫本体だけでなく近接する区域において、湿気が溜まりやすいところはないか、気温の上下動が著しいところはないかなど、四季を通じた観察により、建物全体の「性格」とでもいうべき傾向を把握する期間です。また、様々な作業を想定して外部との動線を確認し、害虫やカビ等を持ち込まないためにはどうしたらよいか考えることが不可欠でした。

竣工してから20か月経過した今年1月、いよいよ本格運用に移行するべく収蔵品の一部につ



作品が収納された第2収蔵庫

いて、第1収蔵庫からの引越を行いました。その結果、狭隘きょうがいで密だった作品はゆったりと空間を取れるようになり、空調の効果も十分に発揮できそうです。収蔵庫はお客様の目に触れないバックヤードですが、美術館職員にとっては一大リニューアルであり、引越完了に安堵しました。

もうひとつ、お客様が足を踏み入れる空間でもリニューアルがあったのですが、お気づきの方は少ないかもしれません。それは館内各所の

照明設備の更新です。特に展示室のそれは、実は作品展示の質を大きく左右するものなのです。

漆芸品は光によって退色や変質を招くことが良く知られていますが、美術館では、作品の劣化を防ぎながらも個々の魅力を最大限にお客様に伝えなければなりません。新しい照明器具の設置にあたっては調光（光の強さを調節する）機能はもちろん、色温度（光の色）の吟味も必要でした。例えば、白っぽいクールな光に照らされる場合と、黄味がかかった暖かな光の下にある場合とでは、同じ作品でも印象が異なります。当館の学芸員たちが照明に苦勞する代表的なものは沈金作品です。金箔や金粉を定着させた繊細な彫りは、どのような色・強さの光を当てると最も美しく反射するのか、照明の僅かな違いが作品への評価に影響することを思うと、軽んじることはできません。器具を選択する場面では、実際にいくつもの作品に光をあててみて、その効果のほどを検討しました。

当館は1月10日から2月3日まで長く休館していました。これらの作業が行われていたのでした。ひそかなりニューアルを踏まえて、美術館の保存・展示機能が今後も一層高まるよう、努力して参ります。

（細川貴久美）

▼石川県輪島漆芸美術館友の会秋季研修旅行実施報告

11月10日(木)～11日(金)に、3年ぶりの友の会秋季研修旅行を実施しました。

東京・国宝ざんまいの旅!と計画はしたものの、コロナ禍の中、無事実施できるであろうかと不安もありましたが、多くの国宝を二挙に見学するまたとない機会に心が躍り、のと里山空港を出発しました。

まずは、静嘉堂文庫美術館「響きあう名宝―曜変・琳派のかがやき―」展へ。重厚な重要文化財建築の中に、国宝《曜変天目(稲葉

天目》をはじめ、4つのテーマで展示された作品に魅了されました。

次に三井記念美術館では「大時絵展―漆と金の千年物語―」を鑑賞。平安時代から現代の漆芸家の蒔絵作品にうつとり。

2日目は東京国立博物館創立150年記念として開催されている「国宝 東京国立博物館のすべて」を堪能しました。この特別展で数多くの国宝を目の当たりにしてまさに感動です。開館30分前に到着したにも関わらず長蛇の列で

静嘉堂文庫美術館



東京国立博物館



展示会の人気を実感。見学時間が足りず後ろ髪を引かれる思いで会場を後にしました。興奮冷めやらぬまま帰路に着き、「国宝」を心ゆくまで満喫した2日間でした。
(川上千鶴子)

ミュージアムショップ からのお知らせ

石川県輪島漆芸美術館ミュージアムショップでは、公式キャラクターわんじまのオリジナル商品を販売しています!

オンラインショップより購入することもできます。ぜひチェックしてください!



わんじまマルチポーチ



わんじまレザー調
フセンブック



わんじまハードカバー
ポケットノート

イベント情報

* 予定は変更となる場合があります。詳細はホームページをご覧ください。

2月 * 休館日 27日(月)～28日(火)

メモリアルパネル展

2月4日(土)～12日(日)

会場 講義室 * 入場無料

鬼わんじまぬりえ展

2月4日(土)～12日(日)

会場 講義室 * 入場無料

「輪島あえの風冬まつり」特別協賛料金

2月11日(土・祝)～19日(日)

一般 420円

高大学生 210円

小中学生 100円

期間中は上記特別料金で入館できます。

数量限定！

オリジナル絵はがきセットプレゼント

2月11日(土・祝)・12日(日)

各日50名様にプレゼント * 要入館券

3月 * 休館日 1日(水)～3日(金)

石川県輪島漆芸美術館友の会主催 「琵琶で語る平家物語」

3月5日(日) 14時開演

会場 講義室 * 入場無料

出演 錦心流琵琶全国一水会金沢支部

令和4年度伝承者養成事業成果発表展

3月10日(金)～13日(月)

会場 講義室 * 入場無料

ちりめん細工作品展「里山の四季」

3月18日(土)～26日(日)

会場 エントランスホール * 入場無料

作品制作 裏野芳子氏

* 最終日は15時まで



開館時間

9時～17時

(入館は閉館の30分前まで)

入館料

| | 個人 | 団体(20名以上) |
|------|------|-----------|
| 一般 | 630円 | 520円 |
| 高大学生 | 320円 | 210円 |
| 小中学生 | 150円 | 100円 |

アクセス

◎飛行機

羽田空港から約60分
※のと里山空港から車で約20分

◎車

金沢市内※のと里山海道利用＝約100分
(自家用車・大型バス無料駐車場有)

◎特急バス

金沢駅※北鉄奥能登バス・北鉄金沢バス
輪島特急線「輪島駅前」下車＝約120分

◎「輪島駅前」から

- ▶のらんげバス海コース「漆芸美術館」下車
- ▶徒歩約15分



〒928-0063
石川県輪島市水守町四十苅11番地
TEL 0768-22-9788
FAX 0768-22-9789

<https://www.city.wajima.ishikawa.jp/art/>

ご来館のお客様へお願い

■新型コロナウイルス感染症拡大防止の徹底のため、ご来館時にはマスクの着用、手指の消毒をお願いいたします。また、検温を実施し、37.5℃以上の発熱がある場合、入館はご遠慮いただきます。混雑時には入場制限を行うことがございます。詳細な取り組みにつきましては、事前にホームページ上で「ご来館の皆さまへ」をご確認ください。